

新城市鳳来北西部地区で取り組むサル対策

～発信機を取り付けて事前にサルの動きをキャッチ！～

小出哲哉（新城設楽農林水産事務所農業改良普及課）

【平成23年5月20日掲載】

【要約】

新城市鳳来北西部地区は、ここ数年、サルによる農作物への被害が増加しており、その対策に苦慮している。

そこで、新城・北設広域鳥獣害対策協議会が信州大学に依頼してこの地区に生息する5群のサルに発信機を取り付け、行動域の調査を実施した。農業改良普及課では、市内6集落から受信したサル情報を農産物直売場に集まるように情報網を整えた。その結果、サルの動きを事前にキャッチでき、リアルタイムでサル対策を行うことが出来るようになった。

1 はじめに

新城市鳳来北西部地区は、6集落（只持、塩瀬、愛郷、須山、海老、久老勢）からなる山あいの地域である。サルによる農作物への被害が増大し、農産物直売所（以下、「直売所」）へ出す農作物が収穫できないほどの被害が出ている。

サルは群れで生活しており、群れの中心である経産メスに発信機を取り付け、遠隔地からサルの群れの動きを察知出来る（テレメトリー調査）ことが知られている。そこで、農業改良普及課が支援したテレメトリー調査を利用したサル追い払いに向けた取り組みを紹介する。

2 サルの行動域が予測可能に

新城・北設広域鳥獣害対策協議会からの依頼により、平成21年に信州大学泉山准教授によって新城市鳳来北西部地区に生息する5群（田峰、清崎、平山、海老、只持）のサルに発信機が取り付けられ、行動域が明らかとなった（図1）。それにより、これらの群れをテレメトリー調査することによって、監視することが出来るようになった。

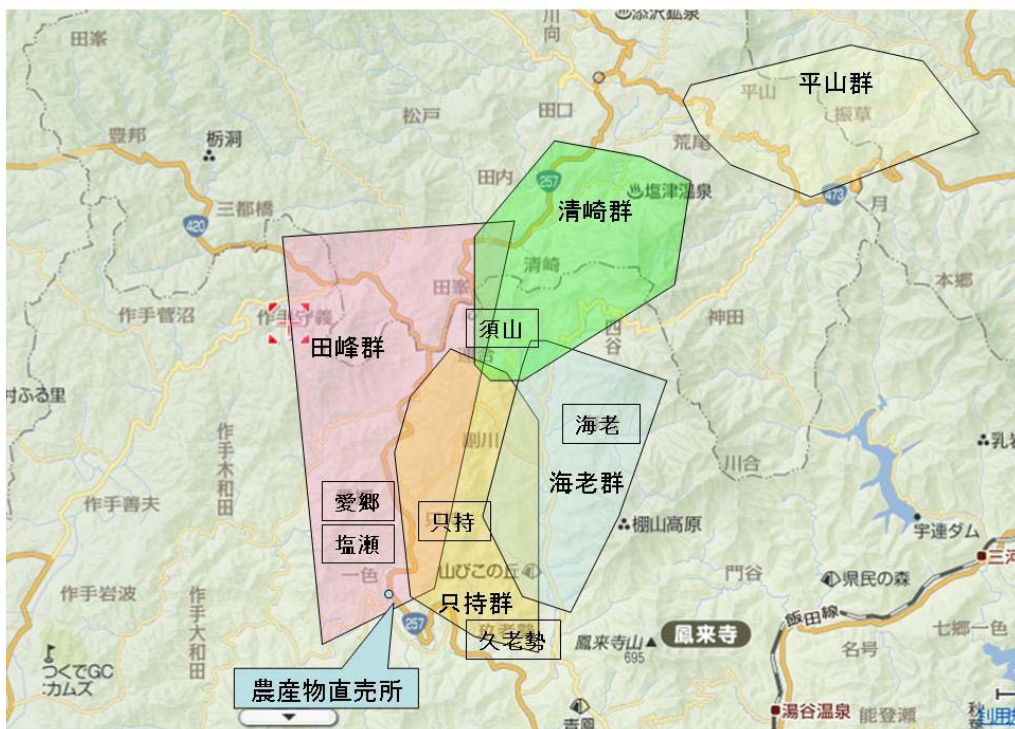


図1 新城市鳳来北西部地区におけるサルの行動域

3 サル情報の利用体制

各集落代表農家が只持集落以外の5集落（塩瀬、愛郷、須山、海老、久老勢）でサルからの電波を受信したら、ファクシミリで直売所にサルの群名と位置等を連絡する。農産物直売所の店員は、受け取った情報を直売所の白板に掲示する。各集落からサル情報がほしい場合は、直売所に問い合わせることとした（図2）

このように、サル情報を人の集まる直売所に集約するようにした結果、直売所が情報拠点となり、サルの行動を監視しながら追い払いができる体制が整った。

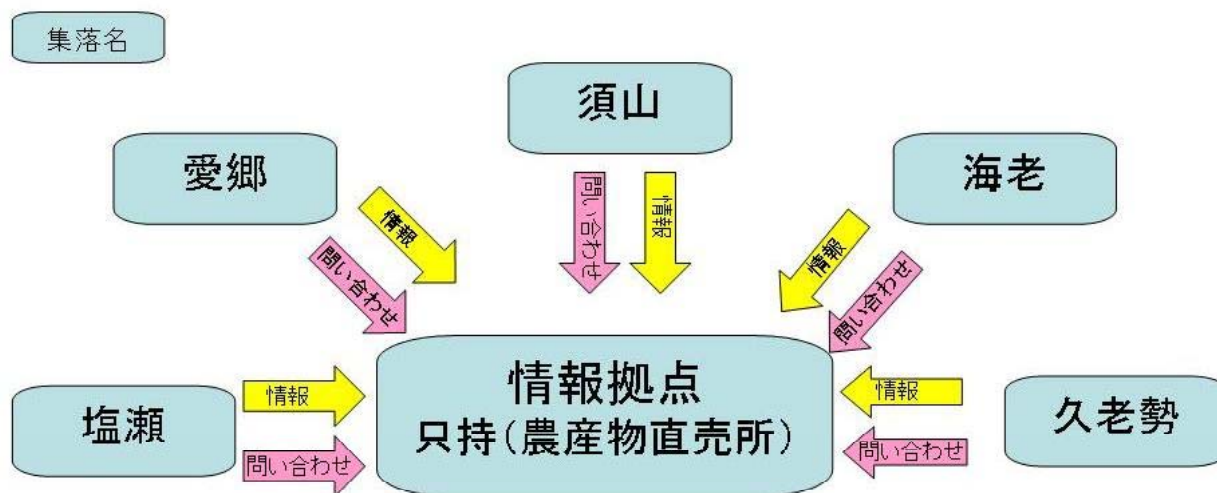


図2 新城市鳳来北西部地区におけるサル情報の利用体制

4 追い払い勉強会

サル情報の利用体制が整ったため、農業改良普及課は、平成22年9月29日に「集落あげでのサル追い払い体制づくり」に向けての講習会を三重県農業研究所の山端研究員を講師に招いて開催した。講義の他に、実際の畑に出て、被害にあった園を見ながら、囲い柵設置のポイントや沢山生えている放置クリの伐採の必要性などの指導を受けた(写真1)。



写真1 現地指導の様子

5 おわりに

今後は、サル情報に基づいて、地域みんなで自主的な追い払いを実施していく。農業改良普及課は効果ある追い払いが遂行できるように継続して支援していく予定である。